

鹿対策音声装置を拡販



▲ 鹿に警戒音を発し線路立ち入りを防ぐ製品イメージ(原田産業提供)

原田産業(大阪市中央区、原田暁社長、06・6244・0171)は、鉄道業界向けに鹿対策用音声装置「シカ離レール」の販売を拡大する。2020年春にJR西日本で試験採用され、ニーズは高いと判断。他の鉄道会社へも提案を強化する。鹿の生息数は年々増加し、線路内に鹿が侵入し列車との衝突事故による運行の遅れ問題に対応する。同社試算で潜在市場は1万台あるとみて、まず200台の採用を目指す。

JR西から15年に鹿やイノシシなどの獣害対策が問題になつてい

ると相談を持ちかけられ、ドイツの展示会で見つけたボーランドのNEEL(ニール)の製品が使えると判断。これをベースに日本仕様に改良を重ね、船の汽笛メーカーの伊吹工業(大阪市旭区)の生産協力を得て製品化。JR西には京都府福知山市を走る区間で3台採用された。

装置から発生する警戒音は動物が危険を感じた時、仲間にその危険を知らせる鳴き声。

原田産業は北海道から九州まで全国の山間部に敷設されている線路周辺すべてが利用対象と想定する。システム価格は1台150万円で、1台のカバー範囲は70㍍。多くの鉄道会社は獣害対策に柵などを設けるが、メンテナンスに費用がかかる。同装置は10年間メンテナンスフリーで対応できるという。

原田産業、鉄道向け強化